

新善光寺御影堂は首途八幡の西にあり、久代天長年中檀林皇后の建立にて、開基は弘法大師なり。中興王阿上人、

真言宗を改て時宗となる。本尊の阿弥陀仏は安阿弥の作なり。「初の本尊は信濃国善光寺の如来をうつし作りて本尊とす、故に御影堂と号す。今坊中善光庵に安置す」脇壇には一遍上人の像、王阿上人の像を安ず、方丈の本尊は一光三尊にして、阿弥陀観音勢至は弘法大師の作、則嵯峨帝の御念持仏なり。鏡の池塩竈の井は本堂の南北にあり、地藏堂は方丈の東なり。「当寺始は東洞院春日にあり、檀林寺の別所にして尼寺なり、承安年中に炎上し、東河原院にうつす。応永廿八年佐女牛室町の北に引、享祿二年五条新町の北にかへ、又天正十五年此地にうつす」坊中に扇を折て業とする事は、昔無官太夫平敦盛の室蓮華院尼公此寺に閑居し、阿古女扇を製し給ふ。其頃後嵯峨帝御悩まします時、当寺の住職祐寛阿闍梨は御悩除滅の修法を加持し、又扇に咒文を封納して帝に上らる、即御平癒ましくければ、皇子竹の御所当寺を再興し、剃髪し給ひ王阿上人と号しける。扇は此吉例によりて世々名物となり、高貴の献として都鄙の賞翫となれり。